

武川銀座

今昔物語

日本橋から甲州街道を160キロあまり。
甲州街道(国道20号)と横手日野春線の交わるエリア。
かつてそこに、黄金の街「武川銀座」があった。
昭和34年の台風7号が襲うまで栄えた、その街の面影は今…。

時は昭和30年代。
高度経済成長の日本において、武川銀座も例外ではなかった。
実に多業種の商店が立ち並び、人々はバスを使い訪れ、映画や買い物に興じた。
商店の活気溢れる声、駒城村や円野・日野春からも人々が訪れ、
この街はいつしか「武川銀座」と呼ばれた。



武川銀座の街並み



牧原四つ角 バス停付近の様子

1959年(昭和34年)の8月に連日の雨で河川が増水している中、台風7号が襲来し、1時間最大約50ミリの暴風雨により各地で大被害をもたらしました。

武川村も大武川上流から堤防が決壊、大武川橋、釜無川橋をはじめ全ての橋が流失し、約1週間陸の孤島となりました。



濁流にのまれた牧の原地区
(旧山梨県武川村 釜無川・大武川合流点)



土石流の被災箇所で呆然と立ち尽くす住民
(旧山梨県武川村牧の原地区)

国・山梨県の素早い対応で自衛隊、建設会社の多くの作業員で活気付き、武川銀座も皆一丸となり復旧復興に望みを繋ぎました。
後に、昭和39年には東京オリンピックが開催、戦後の高度経済の成長により交通網の発達、物流、テレビの普及により娯楽、様々な情報が得られ地域の更なる発展へとつながりました。

おじさい

第10号



発行日：2025年2月25日
発行元：北杜市商工会武川地区広報委員会
お問い合わせ：0551-26-2331

今号は「武川村史」・甲斐駒清流懇話会「川、語り継ぐ記憶」を参考に作成

武川銀座の今昔

昭和34年の台風による大武川の氾濫前は甲州街道をはじめ地形も今と違いました。
商店・事業所が立ち並び、人々の活気で溢れた武川銀座よ再び・・・



ももの湯



伏見スタンド (アイスキャンディー)

事業所の数

62

昭和30年

12

令和5年



牧原交差点上空から武川銀座を眺める。
台風で流されてしまった大武川橋と街並み。
現在でも、武川銀座をその街並みから
感じることができる



斎藤映画館

釜水荘 (料理屋)

梶原常吉

昭和30年台の武川地区

武川銀座の斎藤映画館では、旅役
者や歌手の興行も行われました。
三楽ラーメンではラーメンが35円の
時代。
地図を見るだけで、当時「武川銀座」
と呼ばれたのも納得できる。

武川銀座の長さ

2.3 km

東西に約2.3kmもの
長さで商店・事業所が
立ち並んでいました。

武川銀座の商店・事業所



7 店
商店・百貨店



6 店
理・美容室



5 店
事業所・工場



6 店
菓子・食料品



4 店
飲食店



4 店
医院・診療所



1 店
肉屋



1 店
タクシー



4 店
服屋



2 店
電機



2 店
自転車屋



2 店
金物屋



2 店
時計店



1 店
映画館

その他にも専門店は時代を感じさせる
蹄鉄、左官、鋸屋、鍛冶屋をはじめ、
飼料店、板金、石材店、たばこ屋、薬屋、
新聞販売店、写真店、クリーニング、歯科、
自動車屋、旅館など、専門店も軒を並べ
ていました。